

鎌倉時代の仏教と文化

仏教： 貴族社会 →→→ 武士や民衆のものへ広がった

戦乱・飢饉・災害 ⇒⇒ () に救いを求め、不安をのりこえようとした

[武士や民衆の願いと生活にあった新しい教え]

◎ () は、「 」を説く。
阿弥陀仏の救いを信じて「 」の念仏をとこなえれば、極楽に生まれ変わることができる。

◎ () は、「 」を説く。
() の弟子。
阿弥陀仏の救いを信じる心が大切で、迷いが多く仏にすがる気持ちの強い人こそが救われる。

◎ () は、「 」を開いた。
各地を歩いて [] をすすめた。

◎ () は、「 」を開いた。
法華経こそが仏の真実の教えであるとして、他の宗派を攻撃し、「南無妙法蓮華経」の [] をとこなえるようすすめた。

これらの新仏教は、これまでの仏教からにくまれ、朝廷や幕府から迫害を受けたが、**簡単**でわかりやすく、**実行しやすい**ものであったので、しだいに広まっていった。

◎ () は、「 」、
() は、「 」を開いた。
2人は、中国の () にわたって、() による修行を重んじる「 」を日本に伝えた。

新仏教は中世社会に浸透したか

荘園制は中世封建制的な土地所有体系であり、多くの荘園を領有した旧仏教の寺社勢力は、古代的な権力でなく、中世封建領主ということになる。当然、その荘園支配に自らの仏教を権威として利用した。年貢を積極的に進納する従順な農民には現世安穩、後生善処を約し、敵対する者に対しては呪詛を行い、来世には地獄に落とすとおどすのである。

宗派	開祖	寺院	教養の特色と布教
浄土宗		知恩院 (京都)	「南無阿弥陀仏」と念仏を唱えることにより極楽浄土に往生できる。他力本願。貴族・武士・庶民へ。
浄土真宗		本願寺 (京都)	念仏を唱えることにより極楽往生。他力本願。悪人正機の説。関東の武士・農民へ。
時宗		清浄光寺 (神奈川)	全国を遊行。踊り念仏。他力本願。武士・庶民へ
法華宗		久遠寺 (山梨)	『法華経』を信じ、「南無妙法蓮華経」の題目を唱えれば成仏。他宗非難。関東の御家人へ。
臨済宗		建仁寺 (京都)	宋から伝わった禅宗。幕府の支持を得て、将軍家・上級武士に広まる。
曹洞宗		永平寺 (福井)	宋から伝わった禅宗。自力本願で、座禅による修行。地方武士に広まる。